

おひとりさまも安心！人生の終活まるわかり講座
～エンディングノート、死後事務委任、遺言、相続まで～

令和8年10月19日
講師：行政書士吉田安之

<講演概要>

「自分の老後や、もしものときのことを、誰に頼ればいいのか？」

「一人暮らしだけれど、何か準備しておいたほうがいいのだろうか？」

「亡くなった後の手続きは、行政がすべてやってくれるのだろうか？」

本講義では、こうした「おひとりさま」が抱えやすい不安や疑問について、**実際の事例を交えながら、人生の送り方・迎え方を一緒に考えていきます。**

学問的な制度解説だけではなく、行政書士として実務の現場で接してきた事例をもとに、「実際に何が起こるのか」「何を準備しておけばいいのか」「誰に何を頼めるのか」を、できるだけ分かりやすくお話しします。主な概要は下記のとおりです。

- 1, おひとりさま増加の背景
- 2, 誰もおひとり様になりうる可能性もある。
- 3, なんでも行政が面倒見てくれるは本当か？ほっといても大丈夫なのか。
- 4, 終活の準備はいつ開始するのが良いのか？終活への提言
- 5, 具体的に終活の準備は何をすればいいのか？
- 6, エンディングノート、遺言、死後事務委任、任意後見の違い、できることできないこととは？各士業のサポートはどこまでできるのか？士業の連携は？課題は。
- 7, 人生の流れからどういうときにどういう準備をしてゆくといいのか？表で例示
- 8, どういったサポートをしていくことでおひとりさまの終活が万全になっていくのか？そこにかかる費用の概算はどういったものか？
- 9, 事例で解りやすく説明。
- 10, まとめ

日本人は、人生の「終わり」について、あまり積極的に考えない傾向があります。

「死」という言葉を口にすると縁起が悪い。「まだ元気だから、そんなことを考える必要はない。」

そう考えてしまうのも、決して不思議なことではありません。

しかし、終活とは、人生の終わりを悲観することではありません。

「もしものときも、自分らしくありたい」

「大切な人に迷惑をかけたくない」

「最後まで自分の人生を自分らしく生きたい」

現在「おひとりさま」の方も、これから「おひとりさま」になる可能性のある方も、何も準備しないまま時間が過ぎてしまうと、後になってさまざまな問題が生じる可能性があります。

そのために、元気なうちから少しずつ準備し、できることから開始しておくことです。